救急プライオリティーコール
（医療機関からのお問い合わせのみ）

近隣地域の医療機関の皆様とより密接な連携を構築するために、救急専門医・専従医が24時間365日対応する「救急プライオリティーコール」を開設しています。

03-5803-4900（シキューオーエン）（至急応援）

医療連携支援センター新メンバー

西川 結菜（にしかわ　ゆいな）

◆医療連携支援センター 地域連携室

一日も早く業務に慣れ、患者さんのお役に立てるように頑張りますので、よろしくお願い致します。

医療機関からの初診事前予約について　お問い合わせ先　03-5803-4655（地域連携室）

FAX予約の場合

FAX：03-5803-0119

（受付時間8：30～16：00）

上記番号に、紹介状・申込書を送信してください。
速やかに当院よりFAXで「外来診療予約票」を返信します。

電話予約の場合

TEL：03-5803-4655

（受付時間8：30～16：00）

上記番号に、電話をおかけください。
その際に患者さんの氏名・生年月日・希望診療科名・予約希望日をお知らせください。

＊土日祝祭日・年末年始（12月29日～1月3日）、および受診日当日の予約は受け付けておりません。また、翌日分の予約は14時までとなっております。
＊時間外・休日などの申込み分は翌診療日にご連絡させていただきます。（FAX受診は24時間可能）

メールマガジンにご登録ください！

医療連携支援センターでは、メールマガジンを発行しております。当院ホームページより医療連携支援センターにアクセスし、オレンジ色の「メルマガ申込」からご登録ください。

カルテ閲覧のご案内

当院と連携協定を結んでいる医療機関様に限り 地域連携システムを利用して、当院カルテの閲覧が可能になります

連携医療機関様の大きな負担なしで利用可能です

インターネットに接続できるパソコンが1台あればOK！
右記の要件を満たしていれば、既存の端末を使用しても構いません。

要　件

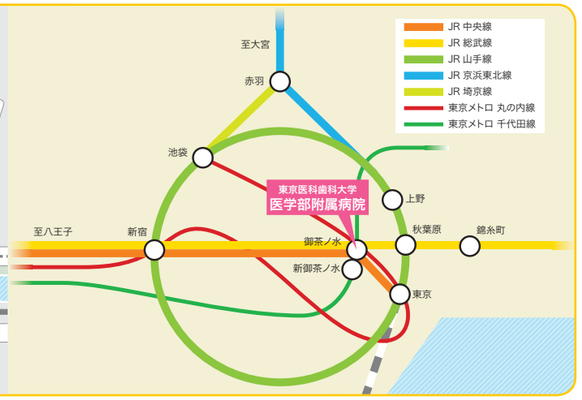
1. インターネットに接続できる環境があること。また、PCの設置場所は施錠できる環境にあること。
2. Microsoft　WindowsVista/Windows7以上の動作環境にあるPCを使用すること。
3. InternetExplore7.0以上が動作すること。
4. 有償のウィルス対策ソフトを実施し、Winnyなどのファイル共有ソフトを削除すること。
5. PDFファイルの閲覧にはAdobeReader10以上を使用すること。

★これらの要件を満たしていれば、申込みいただけます！

1. 申請書の提出。
2. 提出いただいたのち、接続させていただけるか検討いたします。
3. 決定後、順次連携医療機関様へ伺って、接続を行います。

※申込み多数の場合は、利用するまでにお時間がかかることがございます。

連携協定及びカルテ閲覧の申込み 医療連携支援センター 03-5803-4391



JR東日本：中央線・総武線　御茶ノ水駅下車 御茶ノ水橋口（徒歩5分）
東京メトロ（地下鉄）：丸ノ内線　御茶ノ水駅下車東京医科歯科大学方面出口（徒歩1分）／千代田線　新御茶ノ水駅下車 B1出口（徒歩7分）

東京医科歯科大学医学部附属病院 医療連携だより 18号（平成31年2月発行）
発行　〒113-8519　東京都文京区湯島1-5-45　東京医科歯科大学医学部附属病院医療連携支援センター　TEL:03-5803-4655　FAX:03-5803-0119
http://www.tmd.ac.jp/renkei/

本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

国立大学法人 東京医科歯科大学 | 医学部附属病院 Tokyo Medical and Dental University

医療連携だより

御茶の水通信 No.18

東京医科歯科大学医学部附属病院の理念と基本方針
●理念：安全良質な高度・先進医療を提供しつづける、社会に開かれた病院
●目標：1．患者中心の良質な全人的医療の提供
2．人間性豊かな医療人の育成
3．高度先進医療の開発と実践
4．国民のニーズに応える開かれた病院

医療連携支援センター（地域連携室）　TEL：03-5803-4655　FAX：03-5803-0119

財団法人日本医療評価機構 認定病院

東京医科歯科大学
医学部附属病院
医療連携支援センター長
（病院長補佐）
泉山　肇

新年を迎え、皆様にはご清祥のことと心よりお喜び申し上げます。

また、日頃より、当院との地域医療連携に対し格別なご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当院は特定機能病院として「安全良質な高度・先進医療を提供しつづける、社会に開かれた病院」を病院の理念とし、高度先進医療ならびに高度急性期医療を提供しております。しかしながら、患者さんへ最良の医療を提供できたとしても、その患者さんが地域で社会生活を行うことができなければその提供した医療の意味が薄れていくものと考えております。また、入退院される患者さんのみならず、外来通院されている患者さんへの更なる支援により、早期対応が可能となり、地域包括ケアシステムへの継ぎ目のない支援につなげられると考えております。いずれも地域医療機関の皆様との緊密な医療連携の推進があって、はじめて実現可能となることは言うまでもありません。

患者さんを地域につなげ、本来の社会生活を送っていただけるよう、センター職員が一丸となり、地域医療機関の皆様との架け橋になるべく、尽力したいと思っております。

地域医療機関の皆様におかれましては、これまで以上のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

アレルギー疾患先端治療センターのメンバー紹介

糖尿病・内分泌・代謝内科の診察風景

TOPICS

- ●医療連携支援センター長の挨拶
- ●アレルギー疾患先端治療センター
- ●糖尿病・内分泌・代謝内科
- ●がんゲノム診療科
- ●医療連携支援センター新メンバー

医療連携支援センターの役割

- ●紹介患者さんのスムーズな受け入れ
- ●医療機関からの初診事前予約受付
- ●入院・退院患者さんとそのご家族のサポート
- ●その他の医療・福祉相談

アレルギー疾患先端治療センターご紹介

アレルギー疾患は呼吸器・鼻・眼・皮膚・消化器など全身に症状が出る疾患です。当センターでは、内科・小児科・皮膚科・耳鼻科のアレルギー専門医が横断的に密接に協力して総合的にアレルギー疾患を治療してまいります。それにより、全身のアレルギー疾患を同時に根本から治療することが可能です。
当院では最新治療である生物学製剤・免疫療法・レーザー療法・紫外線療法、核酸医薬品開発のため臨床治験・臨床研究なども行っています。また患者さんの同意のもと、新規に開発された未承認薬なども試みることができます。
センターに属する各診療科の特色について聞きました。

皮膚科　センター長 横関 博雄（よこぜき ひろお）

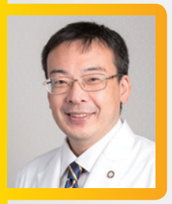
Q 皮膚科の視点から見たセンターの特色は？
皮膚アレルギー、食物アレルギー、薬剤アレルギーなどの原因を明らかにすることにより困っている症状を改善できます。生物学製剤などの新薬を使うことが可能です。既存治療に加え、幅広い先端治療や臨床研究を含めた新規治療を提供させていただきます。

Q 連携医療機関からの具体的な紹介例は？
麦依存性運動誘発性アナフィラキシーの症例をお送りいただき、小麦負荷後運動をすることで誘発できました。原因がわかり患者さんも満足なさいました。

Q センターに患者さんを紹介する場合の注意点は？
検査などをしていれば結果もお知らせください。化学物質過敏症は十分な対応ができないことがあります。

Q その他のPRポイントは？
最近、アトピー性皮膚炎、慢性蕁麻疹に生物学的製剤療法が保険適応になりました。また、難治性皮膚疾患である慢性痒疹の生物学的製剤療法の臨床治験をしており良好な結果が得られています。ぜひ、お送りください。

呼吸器内科　教授 宮﨑 泰成（みやざき やすなり）



Q 呼吸器内科の視点から見たセンターの特色は？
呼吸器内科では、主に難治性喘息・慢性咳嗽を担当します。これらの患者さんには食物アレルギーやアレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎などの複数のアレルギー疾患をお持ちの方も多く、内科医が日ごろの診療を包括的に行う一方で、各科専門医に横のつながりをもって対応することが可能です。また、過敏性肺炎はアレルゲンの特定など、より専門的診療が必要な疾患であり、従来から本学が積極的に診療・研究を行ってきました。

Q 連携医療機関からの具体的な紹介例は？
従来の治療で難治例の患者さん、生物学的製剤を使用したいがクリニックなどで対応が難しい患者さんなど、ご紹介いただければと思います。

Q センターに患者さんを紹介する場合の注意点は？
化学物質過敏症はアレルギー疾患であるとの位置づけが難しく、当院では専門的検査も行っていないため、診療困難です。

Q その他のPRポイントは？
治療薬等の進歩によって、重症・難治性喘息の患者さんは減ってきていますが、まだまだコントロール不良の方もおられます。また、近年増加している成人食物アレルギーや難治性の好酸球性副鼻腔炎などの合併例も日常的に見られるようになりました。複数のアレルギー疾患に対し、包括的に対応するために、センターを利用していただければと思います。

小児科　非常勤講師 大柴 晃洋（おおしば あきひろ）

Q センターの特色は？
アレルギーマーチで表現されるように小児期には、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、気管支喘息、アレルギー性鼻炎などが順次発症し合併します。小児のアレルギー疾患は基本的に当センターの小児科アレルギー専門医が診療にあたりますが、合併したアレルギー疾患の重症例はそれぞれの専門科と共同した適切な治療管理を行えるメリットがあります。思春期以降まで続くアトピー性皮膚炎、気管支喘息、アレルギー性鼻炎ではそれぞれ皮膚科、呼吸器内科、耳鼻咽喉科への移行期医療を円滑に進めることが可能です。

Q 連携医療機関からの具体的な紹介例は？
摂取食物量の閾値の低く誘発症状の強い例や複数の食物にアレルギーがある例などの比較的重症な食物アレルギーの紹介が増えています。

Q センターに患者さんを紹介する場合の注意点は？
小児の患者さんでは、周産期歴やアトピー素因（家族歴、既往歴）の情報を添えていただくと助かります。

Q その他のPRポイントは？
小児科では当センター以外の各種小児専門外来があるためアレルギー以外の疾患が合併する患者さんの相談も可能です。

耳鼻咽喉科　講師 鈴木 康弘（すずき やすひろ）

Q センターの特色は？
診療所や病院で治療を受けているが、自覚症状の改善に乏しい場合も時々見受けられます。検査を追加させてもらう場合もありますが、内服や点鼻薬による治療以外にも、漢方薬、舌下免疫療法、手術療法（下鼻甲介粘膜レーザー焼灼術や後鼻神経切断術等）等、いくつか治療の選択肢があり、相談の上実施することができます。

Q 連携医療機関からの具体的な紹介例は？
抗ヒスタミン薬を処方されるも、眠気が強く、舌下免疫療法を希望された症例。生魚からのヒスタミンアレルギー症例。市民公開講座を聞き、一度当科受診を希望された症例など。

Q センターに患者さんを紹介する場合の注意点は？
可能な範囲で検査をある程度行った後にご紹介いただけるようにご協力ください。

Q その他のPRポイントは？
“One airway one disease”ならぬ”One allergy one disease”をモットーに、その人にあった治療を提案できればと考えています。

診療科のご紹介

糖尿病・内分泌・代謝内科　教授 山田 哲也（やまだ てつや）

Q 連携医療機関から紹介する患者さんとしては、どんな方が適当でしょうか？
診断・治療に難渋する糖尿病や内分泌疾患、二次性高血圧など疑い例も含めてご紹介ください。

Q 具体的な紹介患者さんの例があれば教えてください。
・健診で糖尿病と診断され治療が必要
・すでに糖尿病で治療中だがHbA1cが目標範囲内に達しない
・若年性あるいは治療抵抗性の高血圧があり何らかの内分泌疾患が疑われる
・検査で副腎腫瘍を指摘された

Q 患者さんを紹介する際に、注意する点などがありますか？
当院地域連携室より糖尿病・内分泌・代謝内科外来をご予約ください。

Q 糖尿病以外にはどんな疾患の患者さんを受け付けていますか？
高血圧（本態性、二次性）、脂質異常症、メタボリックシンドローム、視床下部・下垂体疾患、副腎疾患、甲状腺疾患、カルシウム代謝異常、膵ホルモン産生腫瘍、性腺機能異常の患者さんを受け付けております。

Q 特に力を入れている疾患、得意とする分野などがありますか？
糖尿病に関してはこの数年で糖尿病治療薬の選択肢が増え、単に血糖値を改善させるだけでなく、将来の合併症予防を見据えた薬剤の選択・調整に力を入れています。
副腎腫瘍に関しては他診療科と連携しており、泌尿器科で開発された先進医療「ミニマム創内視鏡下手術」に基づき、当科では副腎腫瘍の術前診断・術後フォローを担当しています。

Q 他の診療科との連携、チーム医療も行っていますか？
入院および外来患者さん向けの糖尿病教室を腎臓内科、総合診療科、歯学部附属病院歯周病外来と連携して開催しております。
また、看護部、薬剤部、臨床栄養部、リハビリテーション部と糖尿病チーム医療会議を定期的に開催し、診療水準のさらなる向上を目指しています。

Q 当院の糖尿病・内分泌・代謝内科の特色・メリットは？
糖尿病・内分泌疾患は全身疾患であり様々な合併症を引き起こすことが特徴です。対象とする疾患の管理を行うだけでなく、合併症のリスクに応じて他科とも連携しながら治療を行っております。

糖尿病・内分泌・代謝内科のメンバー

がんゲノム診療科　准教授 池田 貞勝（いけだ さだかつ）

Q がんゲノム診療科は、どのような患者さんを紹介できる診療科でしょうか？
現時点では、がんゲノム診療科を受診される患者さんは、原則的には以下のような条件に当てはまる患者さんです。
①がんの標準治療が継続できず、それ以上の標準治療がない、または、現在の標準治療が継続できなくなった場合にそのあとの標準治療が残されていない方
②原発不明がんと診断されている方
③希少がんと診断されている方

Q いままでの連携医療機関からの紹介例があればいくつか教えてください。
現時点では、原則として東京医科歯科大学医学部附属病院が、かかりつけの患者さんを各診療科から紹介していただいている状況です。ただし、関連病院の先生方から、それぞれの診療科（例えば消化器化学療法外科、呼吸器内科、乳腺外科、肝胆膵外科、周産・女性診療科など）にご紹介いただき、それぞれの診療科が東京医科歯科大学医学部附属病院の主科となり、ゲノム診療科にご紹介していただいた患者さんはいらっしゃいます。

Q 紹介する場合の注意点はありますか？
現時点では医科歯科大学医学部附属病院での主科となる診療科を受診していただいてから、がんゲノム診療科をご紹介いただく流れになっております。また、当科で行っているがんゲノム検査の結果が出るまで１～２か月かかることもあり、すでに病勢が進行している場合には検査結果をお伝えする前に病状が悪化してしまい治療が困難になる場合もあります。紹介の時点ですでに標準治療がない、という状況では進行している場合も多いため、最後の標準治療を開始した時点など、少し早めにご紹介いただけますと幸いです。

Q 遺伝子診療科との違いはどんなところにありますか？
遺伝子診療科とがんゲノム診療科の最大の違いは、対象としている患者さんの遺伝子変異が、生殖細胞系列の変異か体細胞系列の変異かです。がんゲノム診療科で対象としているのは、患者さんの腫瘍で起こっている体細胞系列変異です。遺伝性の家族性腫瘍は対象としていませんが、当科で行っているゲノム検査の結果、生殖細胞系列の変異が見つかる可能性があります。このような場合には、遺伝子診療科とも協力をして、遺伝カウンセリングや、さらなる遺伝子検査につながる場合があります。

Q 当院のがんゲノム診療科の特色・メリットは？
当院のがんゲノム診療科は経験豊富なスタッフもそろっており、ゲノム検査の説明、検査の実施、検査結果の説明、結果に基づいた治療の実施まで含めて、積極的に診療を行っています。がんゲノム診療自体が今後さらなる発展が期待されており、当科では将来のがん診療を担う人材育成とともに新たなエビデンスの確立および発信に努めています。

がんゲノム診療科のメンバー